

平成23年度日本小児外科学会
第6回定例理事会議事録

日 時：平成 24 年 2 月 24 日（金） 11：00～16：00

会 場：日本外科学会会議室

出席者：田口智章（理事長）、仁尾正記（副理事長）、上野 滋（理事・会長）、岩中 督（理事・副会長）濱田吉則、葦澤融司、前田貢作、北川博昭、窪田正幸、松藤 凡（以上理事）、窪田昭男、橋本 俊（以上監事）、小室広昭（庶務委員長）、菱木知郎（庶務副委員長）、吉澤穰治（財務会計委員長）、渡井 有（財務会計副委員長）家入里志、平川 均（以上庶務委員）、堀口裕輔（事務局）

欠席者：土岐 彰（監事）

議事案件：

議 事：

1. 第6回定例理事会の議事録署名人は、仁尾正記 副理事長、前田貢作理事とした。
2. 平成23年度第5回定例理事会議事録につき、全会一致にて承認された。

3. 報告事項

1) 理事長報告

田口理事長より以下の報告があり、了承された。

- (1) 先進医療振興財団からのポスター・チラシ「23年度橋渡し研究支援推進プログラム成果報告会開催のご案内」を受領した。
- (2) 恩賜財団母子愛育会からのポスター「子どもの健康と社会福祉講演会の開催について」を受領した。
- (3) 日本医療ガス学会からの寄贈「医療ガス教科書、及び院内研修用キット」の謹呈」を受領した。
- (4) 日本外科学会からの寄贈本「SURGERY TODAY Vol. 42-No. 1～2」を受領した。
- (5) 日本医師会からの寄贈本「JMAJ Vol. 54-No. 5」を受領した。
- (6) 日本麻酔科学会からの寄贈本「Journal of Anesthesia Vol. 25-No. 6」を受領した。
- (7) 難病のこども支援全国ネットワークからの冊子「がんばれ！Vol. 130」を受領した。
- (8) 日本医療機能評価機構からの冊子「2011年度ニューズレター第5号」を受領した。
- (9) 厚生労働省からの冊子「医薬品・医療機器等安全性情報 No. 286～287・287 訂正案内」を受領した。
- (10) 日本医療機器産業連合会からの冊子「医療機器業界における医療機関等との透明性ガイドライン策定のお知らせ・パンフレット」を受領した。
- (11) 厚生労働省・がん臨床研究事業（池田 均 先生）からの通信文「研究成果発表会開催結果報告書」を受領した。
- (12) 医歯薬出版株式会社からの冊子「学会案内 2012年1月版」を受領した。
- (13) 日本逆流性腎症フォーラム事務局からの寄贈本「第19回記録集・第20回プログラム・抄録集」を受領した。

- (14) 日本小児がん学会からの通信文「小児がん全数把握施設別の登録集計表」を受領した。
- (15) 日本製薬工業協会からの冊子「製薬協ニューズレター2012No. 147」を受領した。
- (16) 日本医学会からの寄贈「日本医学会・日本医師会合同公開フォーラム DVD」を受領した。
- (17) 日本臨床検査医学会からの理事長退任・就任の挨拶状を受領した。
- (18) 科学技術振興機構からの冊子「J-STAGE ニュース No. 30」を受領した。
- (19) 日本医療機器産業連合会からの寄贈本「医機連ニュース第 76 号」を受領した。
- (20) 小児医学研究振興財団からの理事長就任の挨拶状を受領した。
- (21) 日本小児科医会からの寄贈本「日本小児科医会会報第 42 号・小児科医会ニュース」を受領した。
- (22) 日本専門医制評価・認定機構からの通信文「専門医制度認定 35 学会との協議資料」を受領した。
- (23) 外科関連学会協議会からの通信文「症例報告を含む医学論文及び学会研究会発表における患者プライバシー保護に関する指針に関する日本消化器学会の賛同報告」を受領した。
- (24) 外科関連専門医制度委員会からの資料「専門医の在り方に関する第 5 回検討会」について報告された。
- (25) 健やか親子 21 推進協議会について、厚生労働省に確認したところ、過去に協議会参加申込をされた形跡がなかったことが事務局より報告された。審議の結果、当該協議会に参加申込をすることとなり、当該協議会総会に北川理事が出席の上、説明をすることとなった。
- (26) 日本学術会議男女共同参画分科会アンケート調査について、仁尾副理事長よりアンケート回答の報告がなされた。岩中理事より、質問 5 ポジティブアクションについては、回答内容を「常設委員会に女性を登用している」へ修正すべきとの指摘があり、当該修正を内閣府へ連絡することとなった。
- (27) 第 79 回日本医学会定例評議員会について、資料に基き、報告された。

4 審議事項

1) 第49回学術集会について（上野会長）

上野会長より、機関誌第48巻第2号へ掲載する第5次会告の資料を基に、プログラム内容の説明、およびサテライトセミナー・市民公開講座の説明があり、承認された。

また、第49回学術集会ホームページ（英語版）を学会ホームページ（英語版）とリンクさせることが提案され、国際・広報委員会にて審議することとなった。

2) 第50回学術集会について（岩中副会長）

3月に開催されるWOFAPS理事会で、ISWとのジョイントミーティングが可能かを北川理事より提案してはどうか、との提起があり、承認された。また、6月に開催されるWOFAPS理事会でも引続きジョイントミーティング開催を働きかけていくことが承認された。

3) 第27回秋季シンポジウムについて（窪田前会長）

窪田前会長より、資料を基に開催収支報告（有料参加者308名、国外参加者24名、演題応募数60題など）がなされ、承認された。

4) 庶務委員会（小室庶務委員長）

小室庶務委員長より会員動向について、以下の報告があり、承認された。

平成 24 年 1 月末現在の会員数は、評議員を除く正会員 1,882 名（うち海外 4 名）、評議員 293 名、名誉会員 57 名（うち海外 9 名）、特別会員 57 名（うち海外 1 名）の合計 2,289 名である。

また、評議員選挙オンライン化に伴う定款施行細則改定案につき、資料に基き、説明があり、次回理事会までに各自確認し、次回理事会で改定案を決定することとなった。

5) 財務会計委員会（吉澤委員長）

吉澤委員長より以下の通り報告・提案され、承認された。

- ・平成 23 年度会計中間報告が資料に基づいてなされた。
- ・市民公開講座への費用援助について、直近の開催状況等を調査した資料を基に、継続していくべきかどうか提案され、総合調整委員会にて審議することとなった。
- ・卒後教育セミナー規定につき、前回理事会で承認された方針に則った規定改正案について報告があり、承認された。
- ・定期学術集会および秋季シンポジウム開催時の委員会会場費・委員会費の規定について、現在規定が無いため、学会から支出できる上限金額を定めることが提案され、審議の結果、平成 22 年第 4 回理事会で検討された上限金額である 20 万円を上限とすることが承認された。

なお、第 48 回学術集会時に開催された委員会会場費・委員会費についても、20 万を上限として学会から支出することを土岐前会長へ依頼することとなった。

- ・第 48 回学術集会時に開催された内視鏡手術セミナー会場費については、学会から支出せずに、第 48 回学術集会から支出するよう土岐前会長へ依頼することとなった。

6) 各種委員会報告および審議事項

(1) 機関誌委員会報告

北川担当理事より、資料に基づき、以下の通り報告され、承認された。

- ・次回機関誌委員会にて、平成 23 年度の投稿論文の中から論文賞選考予定である。
- ・中西印刷との契約については、J-STAGE における PDF Viewer を作成する料金設定が無かったため、1 論文 6,000 円 (Viewer 作成費用 3,000 円、J-STAGE 搭載費用 3,000 円) という設定にて、進めている。

(2) 国際・広報委員会

田口理事長より資料に基づき、以下の通り報告され、承認された。

- ・カンボジアの小児外科への本会としての支援事業として、具体的な支援策を検討中である。
- ・学会ホームページ更新については、各委員がそれぞれ担当のページのチェックをし、閲覧しやすいページレイアウトを検討している。

- ・ 3月31日に委員会を開催予定。

(3) 保険診療委員会

窪田担当理事より平成24年度診療報酬改定申内容につき、本会より提出した要望の採用結果が報告された。

技術新設では、鏡視下腫瘍試験切除術、多発性小腸閉鎖多吻合術、先天性食道狭窄症根治術（食道切除）が採用され、技術改正では、先天性気管狭窄症手術の点数増点が認められた。在宅小児経管栄養法指導管理料（1,050点）が新設された。通則7の加算適応疾患の拡大（新生児手術加算）は、鼠径ヘルニア手術、腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術、腹腔鏡下幽門形成術など15術式に認められた。新しく腹腔鏡下腸回転異常症手術、腹腔鏡下腸閉鎖症手術、腹腔鏡下副腎悪性腫瘍摘出術などが認められた。同一手術野複数手術の加算の適応拡大では、鎖肛手術＋造脛術、噴門形成術＋胃瘻造設術、腹腔鏡下脾摘出術＋腹腔鏡下胆嚢摘出術などが追加された。

(4) 教育委員会

松藤担当理事より以下の通り報告、提案があり、承認された。

- ・平成23年度日本医学会分科会用語委員会の議事につき、資料に基いて報告された。
- ・定時学術集会時に開催される内視鏡手術セミナー開催について、受講料を徴収し、かつ学会からは10万円の経費を内視鏡手術セミナー世話人に支払うものとする規定案が提起され、審議の結果、以下の方針で開催していくことにつき、教育委員会で再検討することとなった。

（内視鏡手術セミナー開催方針）

内視鏡手術セミナーは独立して開催するのではなく、卒後教育セミナーのプログラムに組入れる。その際に、内視鏡手術セミナーだけを受講したい場合は、その分の受講料を支払うことで、内視鏡手術セミナー受講証明書を発行できるものとする。

- ・本会会員からの小児外科症例に関する質問（例、珍しい疾患について）について「困ったときの相談掲示板」をホームページの中に設置することが提案され、個人情報に関する制限および投稿者・回答者の匿名性について、教育委員会で再検討していくこととなった。

(5) 悪性腫瘍委員会報告

前田担当理事より以下の通り報告された。

- ・学会誌第48巻第1号に、『小児の外科的悪性腫瘍、2010年登録症例の全国集計結果の報告』として掲載し、この結果の一部は小児外科学会近々HPにアップする予定である。
- ・年次登録・追跡調査のデータ解析による「神経芽腫マスキング休止後のデータ解析」について、Advances in Neuroblastoma Researchにも応募したい旨、抄録案（英文）と共に報告された。岩中理事より、著者については、悪性腫瘍委員会以

外のメンバーが入るのであれば、著者各々の所属機関名は記載すべきではなく、そのメンバーが所属するグループ名を記載すべきとの指摘があり、当該部分につき再検討を依頼することとなった。

(6) 学術・先進医療検討委員会報告

濱田担当理事より以下の通り報告され、承認された。

- ・第47回演題集を作成し、第47回演題集をホームページに掲載し、第48回演題集は現在作成中である。
- ・会員ページに『手術動画配信』を作成し、第47回の9作品と第48回の7作品を公開した。なお、会員ページから『手術動画配信』へ入る際のID, PWを省力できるか確認中である。
- ・平成22年度の文部科学省・厚生労働省日本学術振興会科学研究費の申請及び採択状況についてのアンケートは現時点で93施設(67%)から回答を得ている。
- ・岐阜大学小児科の船戸道徳先生より厚生労働省難治性疾患克服研究事業「Li-Fraumeni 症候群とその類縁症候群の実態調査及び悪性腫瘍の発症予防法や治療法の確立に関する研究」の学会認定施設への一次アンケートの依頼があり、平成24年2月10日付けで一部修正を依頼し承認した。
- ・非会員からのアンケート調査依頼に対応すべく、改正された「全国規模の学術アンケート調査に関する規定」を学会ホームページ一般皆様ページにも掲載することを国際・広報委員会に依頼中である。

(7) 倫理・安全管理委員会報告

蕪澤担当理事より、以下の通り報告され、承認された。

- ・臨床研究の利益相反に関する指針案および指針運用規則案、役員等の利益相反自己申告書案、利益相反の開示用スライド雛形案、機関誌掲載用利益相反自己申告書案が資料に基づき、提案され、承認された。
- ・日本外科学会からの意見募集「臨床医学の教育及び研究における死体解剖のガイドライン」(案)について、委員会で検討の結果、下記3点を本会からの意見とすることが提案され、承認された。
 - 1、機器のレンタルや新しい機器の研究開発時に生じる利益相反に関してさらに詳しい記載が必要である。
 - 2、「当該施設の臨床系診療科に属する教授・准教授等の医師または歯科医師で研修の指導責任者として各学会の指導医等の適切な資格を有するものでなければならない」とあるが、専門医も含まれると考えて良いのか。
 - 3、献体による御遺体を用いることを前提とするが、年齢の制限はあるのか。例えば小児でも献体があったとして、御遺族が承諾すれば可能なのか。

(8) 小児救急検討委員会報告

松藤担当理事より、以下の通り報告、提案され、承認された。

- ・小児外科医のための小児救急症例の勉強会（セミナー）を学術集会時または秋季シンポジウムなどの際に開催していくことが提案され、承認された。
- ・第49回学術集会時のPALS講習会参加申込は、現在6名であり、引続き募集する。

（9）データベース委員会

前田担当理事およびNTT-PCより、以下の通り報告・提案され、承認された。

- ・NCDと専門医制度について

1、NCD登録手術術式と日本小児外科学会専門医制度手術術式との擦り合わせについて、委員が分担して行った確認が終了し、小児外科学会番号が振られていなくて、小児外科疾患に対する手術として選択されうる手術があるとの意見があり、最終版を作成中である。

2、オンラインによるNCDデータとの連携につき、施設の年次報告申請、専門医申請/更新、指導医申請/更新について各項目ごとにNTT-PCと要件をつめる作業を行った。

- ・臨床データベースの利活用について、委員会の中では、NCDデータの有効利用として小児外科医以外の医師が行っている手術数の把握がまず必要という意見が多くあり、会員からの意見も集約していきたい。

7) 総合調整委員会報告および審議事項（仁尾委員長）

仁尾委員長より以下の通り、報告され、承認された。

- ・教育委員会で作成した医育機関あてのアンケート調査用紙(案)について、内容を審議し、修正を依頼した。
- ・医師以外（医学生を含む）の入会が可能な仕組みを準備する上で、評議員選挙目的の会員増につながる可能性などが危惧されることから、慎重に検討する必要があることが確認された。なお、小室庶務委員長より、医師以外（医学生を含む）の入会オンラインフォーム案について、資料を基に説明があり、再度総合調整委員会で検討することとなった。
- ・専門医の適正配置について2010年の施設認定に使用されたデータを集計し、認定施設のない県が6県、指導医不在の県が8県、専門医不在の県はなくなったことが確認された。また、小児外科専門施設以外で行われている手術を含むNCDのデータを加えて今後さらに検討することとなった。
- ・小児外科をとりまく専門医制度のありかたについて、日本小児栄養消化器肝臓学会/日本移植学会/日本小児救急医学会/日本内視鏡外科学会/日本小児血液がん学会/日本周産期・新生児医学会の状況について確認された。
- ・男女共同参画については、医学生の3割が女性である現状を踏まえて、女性の労働力を有効に活用することは重要な事項であり、理事会でも女性医師の問題を積極的に議題に取り上げる方向性が確認された。

8) 会員管理システムについて (小室庶務委員長)

小室庶務委員長より、資料に基き、NTT-PCとの契約が完了したことが報告され、承認された。評議員選挙オンラインシステムについては、システムを利用しない期間は月額維持費が発生しないことが契約に盛り込まれていることが確認された。

なお、評議員オンライン選挙のシステム構築に必要な要件定義は、庶務委員会および事務局とNTT-PCで詰めていくこととなった。

9) 専門医制度規約改定について (専門医認定委員会 黒岩委員長)

専門医認定委員会黒岩委員長より、認定登録医および名誉指導医の新設につき、規約改定案が資料に基いて説明され、内容については各自確認し、意見がある場合は3月8日までに専門医認定委員会 黒岩委員長へ連絡することとなった。

10) その他

(1) 日本内視鏡外科学会技術認定制度委員会委員交代に伴う新委員の承認依頼について

岩中理事より、日本小児内視鏡外科・手術手技研究会から「日本内視鏡外科学会技術認定制度委員会 委員交代に伴う新委員の承認依頼」について、山高篤行先生(順天堂大学)を小児外科領域の新委員とすることの説明がなされ、承認された。

(2) 事務局業務委託に関する学会支援機構との契約更改について

事務局より、学会と学会支援機構との契約が古い状態のままになっていることから、現状に即した内容に更改した案が、資料に基いて、説明され、承認された。

11) 次回定例理事会の日程の確認について

次回理事会は平成24年4月6日(金) 11:00~16:00 東京八重洲ホールにて開催することが確認された。

理事長 _____

理 事 _____

理 事 _____